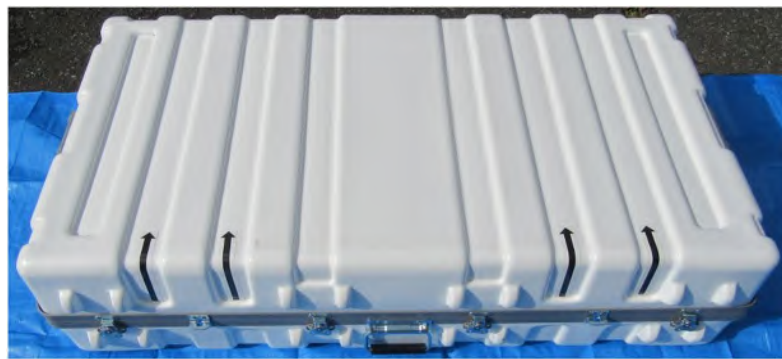


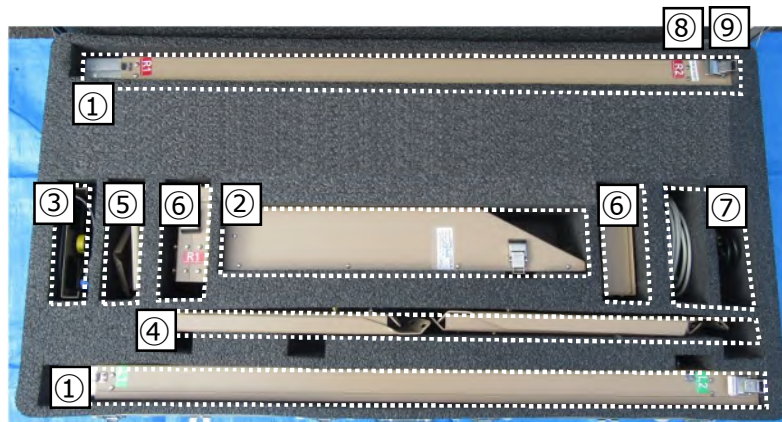
1.1.(1) 展開の手引き ~ゲートモニタ (MODEL52-1-1) ~

展開目安時間：約30分/2人作業
(ケース開封～運用)

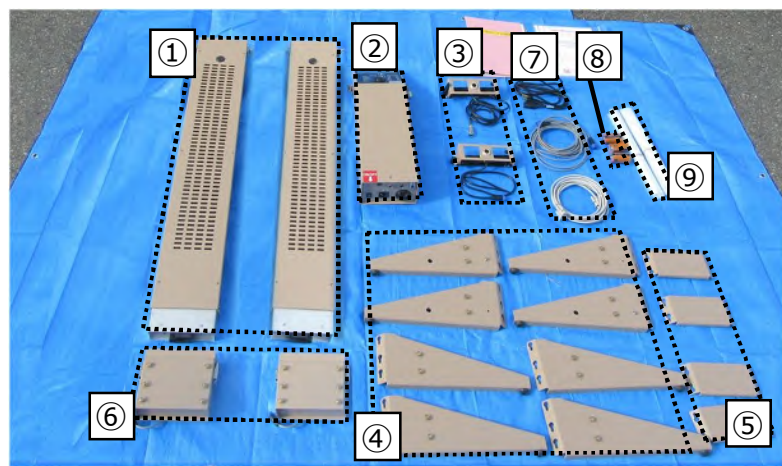
準備品



ケース外観



ケース内観



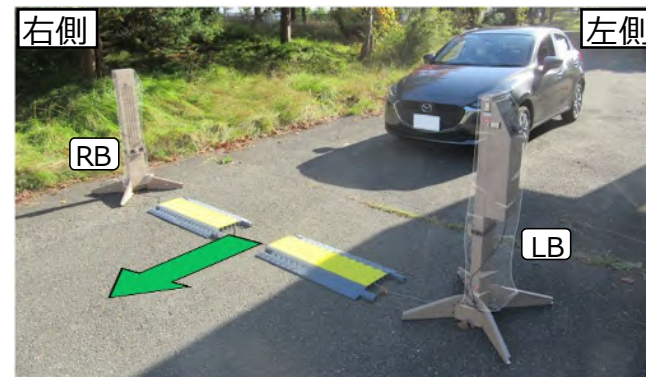
ケース内容物



その他

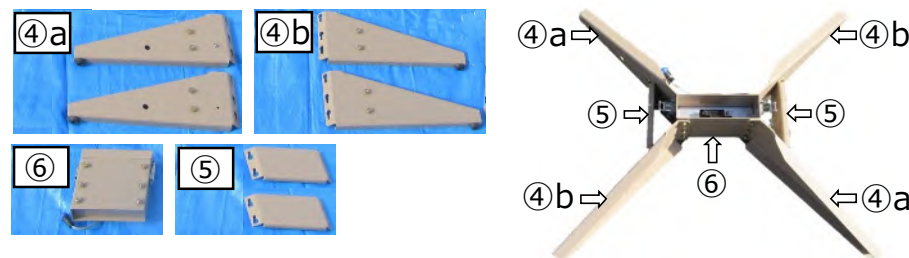
- | | | | |
|---------|----|------------|-----|
| ①検出部 | 2本 | ⑦ケーブル | 3個 |
| ②測定部 | 1台 | ⑧単一乾電池 | 3本 |
| ③赤外線センサ | 2個 | ⑨防護カバー | 20枚 |
| ④脚板 | 8枚 | ⑩ケーブルプロテクタ | 2個 |
| ⑤補強板 | 4枚 | ⑪巻尺 | 1個 |
| ⑥土台 | 2個 | 他 取扱説明書 | |

完成イメージ (検出部1段)



タイヤ部検査用 (高さ約1m)

1. 土台の組立てと設置



(1) ⑥土台の「パチ錠」を解除し蓋を取り外す。



(2) ⑥土台の接続部を上にし四方の留め具へ④脚板を取り付ける (留め具を脚板の鍵穴に差し込んだ後、小穴側へスライド)。



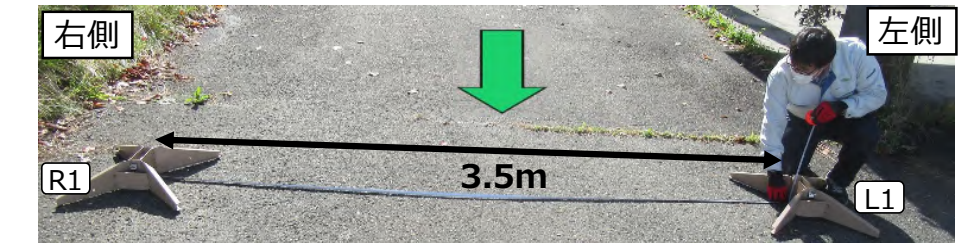
(3) ④脚板間の留め具へ⑤補強板を取り付ける。



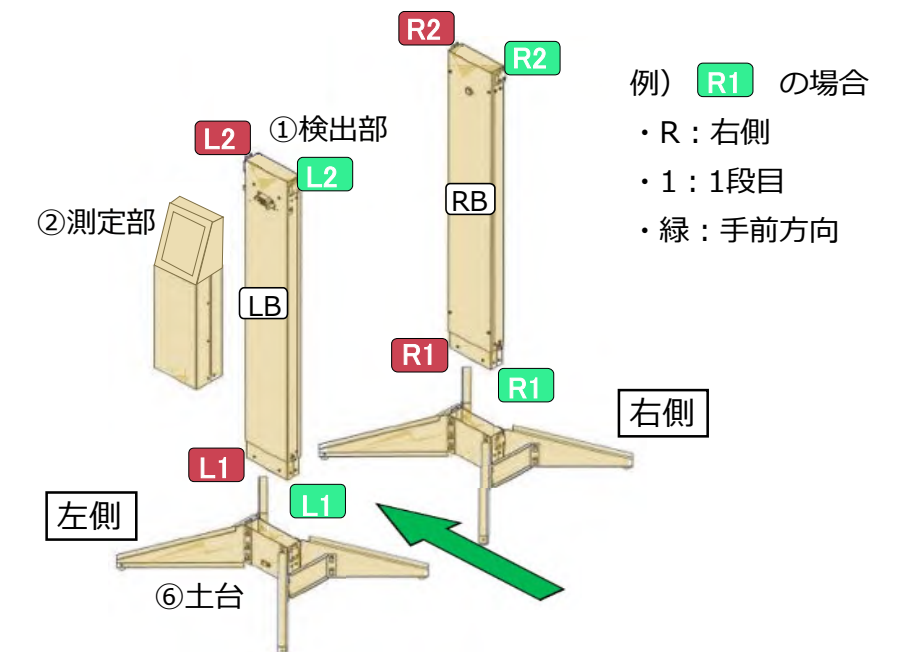
⑤補強板は④脚板と穴の方向が逆になっており、**方向を誤ると土台の強度が低下**するため注意する。

1. 土台の組立てと設置

(4) ⑪巻尺で設置予定場所の距離を測り、約**3.5m**の間隔で2式の⑥土台を左右 (右側: R1、左側: L1) に設置する。



2. 検出部の接続



⑥土台と①検出部の接続部 (差込み側、受け側) の目印を基に、位置を確認した上で**同じ目印同士を接続**する。

(1) 「1.(1)」で取り外した⑥土台の蓋を①検出部の上面接続部 (右側: R2、左側: L2) に取り付け、「パチ錠」を施錠する。



1.1.(1) 展開の手引き ～ゲートモニタ (MODEL52-1-1) ～

展開目安時間：約30分/2人作業
(ケース開封～運用)

2. 検出部の接続

(2) ⑥土台と①検出部の接続部の目印を基に、位置（向き）を確認した上で**同じ目印同士を接続**し、パナ錠を施錠する。



Point 検出部の網目が通行車両側（内面）か確認する。

(3) ②測定部を左側①検出部背面に接続し、パナ錠を施錠する。電源に乾電池を使用する場合は、測定部の取付け前に乾電池を挿入する。（「5. 電源の接続」参照）



3. 赤外線センサの接続

(1) ⑩巻尺で左右の①検出部の高さを測り、約50cmの高さで2個の③赤外線センサ同士が向かい合うよう、付属のマジックテープバンドを巻き付けて取り付ける。

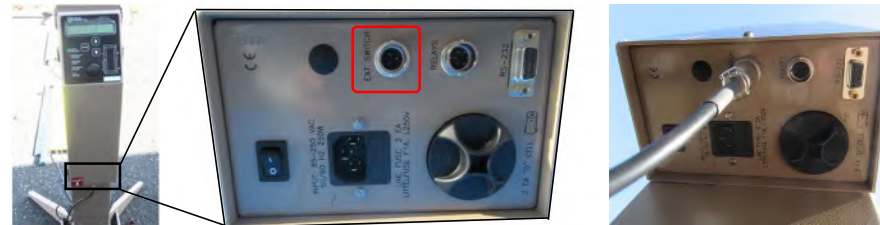
(右側：樹脂端子の赤外線センサ、左側：金属端子の赤外線センサ)



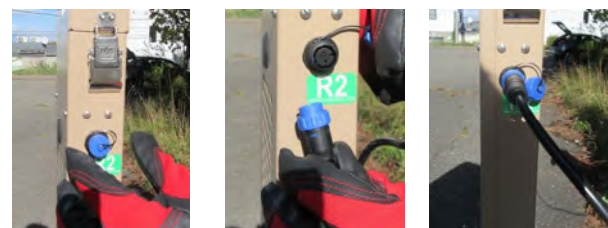
Point 赤外線センサは車両の進入を速やかに検知できる高さに設置する必要がある。

3. 赤外線センサの接続

(2) ③赤外線センサの金属端子を②測定部底面の「EXT SWITCH」端子に接続する（金属端子のピンが合うよう差し込み、時計回りに回す）。



(3) ③赤外線センサの樹脂端子を1段目①検出部側面の「R2」目印近くの端子に接続する（樹脂端子のピンが合うよう差し込み、時計回りに回す）。



(4) 樹脂端子の⑦ケーブル（灰色）を⑥土台間に敷設し、ケーブルと土台背面下部の樹脂端子同士を接続する。



4. ケーブルプロテクタの設置

(1) ⑥土台の間に⑩ケーブルプロテクタを設置し⑦ケーブル（灰色）を収納する。



5. 電源の準備

(1) 使用する電源に合わせて、次のとおり準備する。

①AC電源を使用する場合
コネクタ端子の⑦ケーブル（黒色）を②測定部底面「INPUT」とコネクタ（AC100V）へ接続する。



②乾電池を使用する場合

⑧単一乾電池を陽極（凸）が手前側となるよう②測定部底面の「3EA"D"CELL」へ挿入しスクリューキャップを締める。



Point 乾電池による稼働時間は約24時間が目安となるが、検査頻度、環境条件によって変化するため注意する。

6. 防護カバーの装着

(1) 機器は防滴構造ではないため、左右の①検出部及び②測定部に⑨防護カバーを被せて完全に覆い、防滴性を確保する。



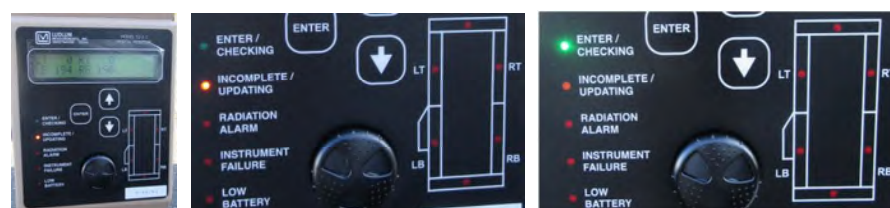
Point 雨天時に関わらず、汚染防止の観点から晴天時に防護カバーを装着することも可能。

7. 測定部の起動

(1) ②測定部底部の電源スイッチを「-」(ON)にする。



(2) 起動後「INCOMPLETE/UPDATING」橙ランプ点滅とピープ音が出力されるため、「ENTER/CHECKING」が緑ランプ点灯に変わるまで待機(約2.5分)する。



Point 起動直後は、起動してから5分間の余熱時間を待つこと。

8. 使用前点検の実施

(1) 測定部を確認し、検出部間のデジタル表示値が同程度であることを確認する。



(2) 手で赤外線センサを遮ることで、車両通過時を模擬し、「ENTER/CHECKING」緑ランプ点滅と短いピープ音が出力されることを確認する。

(3) 赤外線センサを遮ることを止め、車両通過後を模擬し、次のいずれかの出力になるか確認する。

① 警報設定値以下の場合は「ENTER/CHECKING」緑ランプ点灯の出力。



② 警報設定値を超えた場合は「RADIATION ALARM」赤ランプ点灯、ピープ音、検知した検出器RB, LBに赤ランプ点灯の出力(約15秒間)。



Point ゲートモニタは、使用前に警報設定値を設定する必要がある。「運用の手引き」を参照。

(4) 結果出力後は「ENTER/CHECKING」緑ランプ点灯の出力に自動で戻ることを確認する。

正常に動作しない場合の対応

(1) 事象に応じて、以下の対応を試みる。

- ① 「Instrument failure」赤ランプが点灯している場合
バックグラウンドの異常、検出部の故障及び赤外線センサが正常に認識されていない可能性がある。
- ・赤外線センサの高さと向きを確認する。
 - ・機器及びケーブルの接続を確認する。
 - ・ゲートモニタの設定値が正しいか確認する。
- (2.2.(2)運用の手引きを参照)

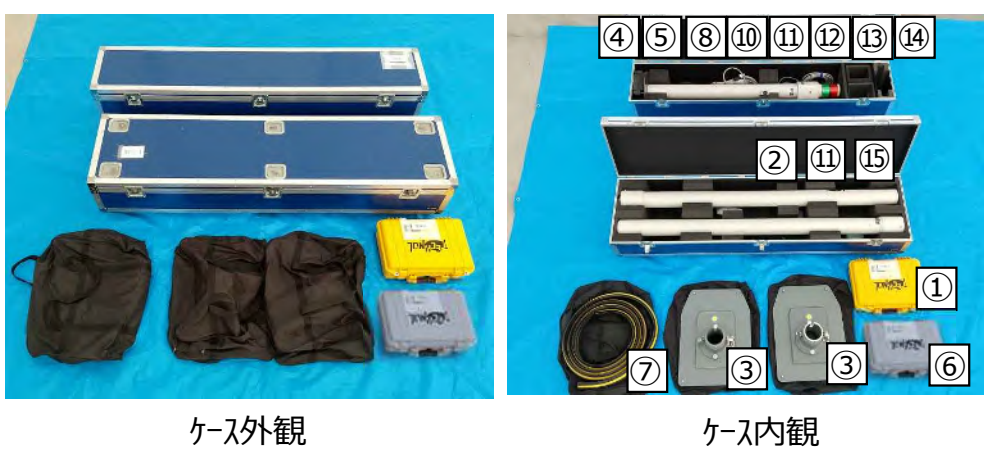
- ② 「Low Battery」赤ランプが点灯している場合
電池電圧が低くなっている可能性がある。
AC電源に切換えて正常に動作するようであれば、乾電池を交換する。

(2) 上記事象に該当しない場合は、**検査責任者補佐員**に状況を伝達する。

1.1.(2) 展開の手引き ~ゲートモニタ (ガンマ・ポール) ~

展開目安時間：約40分/2人作業
(ケース開封～運用)

準備品



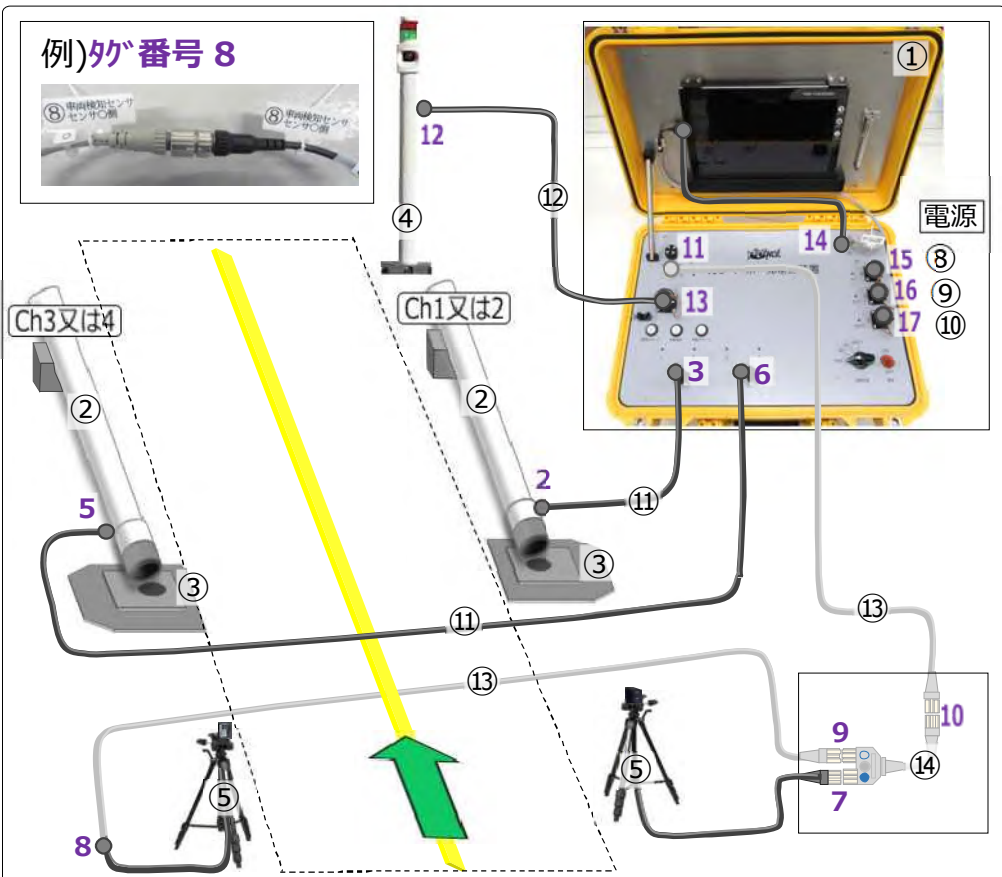
- | | | | |
|----------------|----|---------------|-----|
| ① 制御装置 | 1台 | ⑪ 検出器ケーブル | 2本 |
| ② 検出器 | 2本 | ⑫ 警報表示灯ケーブル | 1本 |
| ③ 台座 | 2枚 | ⑬ 赤外線ケーブル | 2本 |
| ④ 警報表示灯 | 1本 | ⑭ 赤外線ケーブル(二股) | 1本 |
| ⑤ 赤外線センサ | 2個 | ⑮ 緩衝材 | 2個 |
| ⑥ 電池ケース | 1箱 | ⑯ 巻尺 | 1個 |
| ⑦ ケーブルプロテクタ | 1本 | ⑰ 水平器 | 1個 |
| ⑧ 電源ケーブル(AC) | 1本 | ⑱ 単一乾電池 | 30本 |
| ⑨ 電源ケーブル(DC) | 1本 | ⑲ ポリ袋 | |
| ⑩ 電源ケーブル(BATT) | 1本 | | |

Point 接続端子に**カ**番号が付いていない場合は、事前に取り付ける。

完成イメージ



配線図

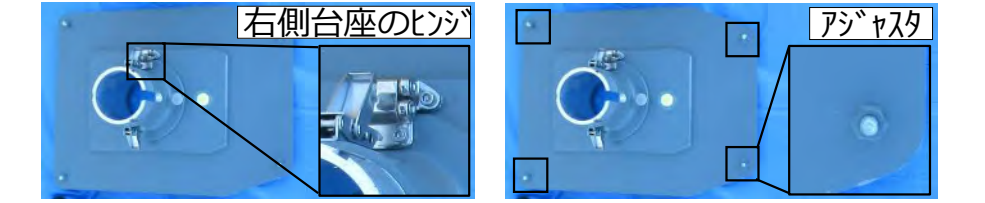
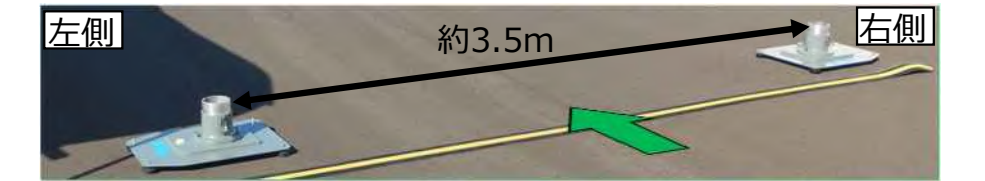


ケーブル名称	接続先	カ番号
⑧ 電源ケーブル(AC)	① 制御装置 ~ 100Vコンセント	15 ~ -
⑨ 電源ケーブル(DC)	① 制御装置 ~ 12Vシガーソケット	16 ~ -
⑩ 電源ケーブル(BATT)	① 制御装置 ~ ⑥ 電池ケース	17 ~ -
⑪ 検出器ケーブル	② 検出器(Ch1又は2) ~ ① 制御装置	2 ~ 3
	② 検出器(Ch3又は4) ~ ① 制御装置	5 ~ 6
⑫ 警報表示灯ケーブル	④ 警報表示灯 ~ ① 制御装置	12 ~ 13
⑬ 赤外線ケーブル	⑭ 赤外線ケーブル(二股) ~ ⑤ 赤外線センサ	8 ~ 9
	⑭ 赤外線ケーブル(二股) ~ ① 制御装置	10 ~ 11
⑭ 赤外線ケーブル(二股)	⑤ 赤外線センサ ~ ⑬ 赤外線ケーブル	7 ~ 9 ~ 10

Point 接続 (差込み側、受け側) の**同じカ番号同士**で接続する。

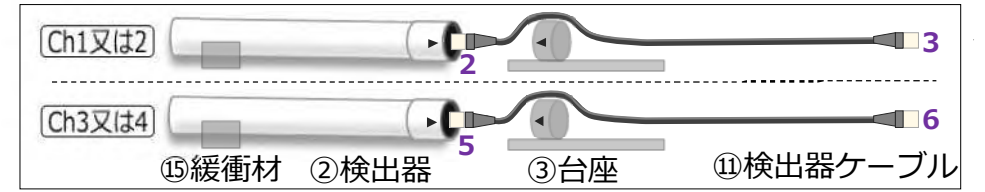
1. 台座・ケーブルプロテクタの設置

(1) ⑯巻尺で設置予定場所の距離を測り約3.5mの間隔で③台座を左右に設置 (車両進行方向に対し台座のヒンジが奥側) し、⑦ケーブルプロテクタを手前に敷設する。



(2) ⑰水平器を基に、③台座の四隅についているアジャスタを、回し、水平調整をする。

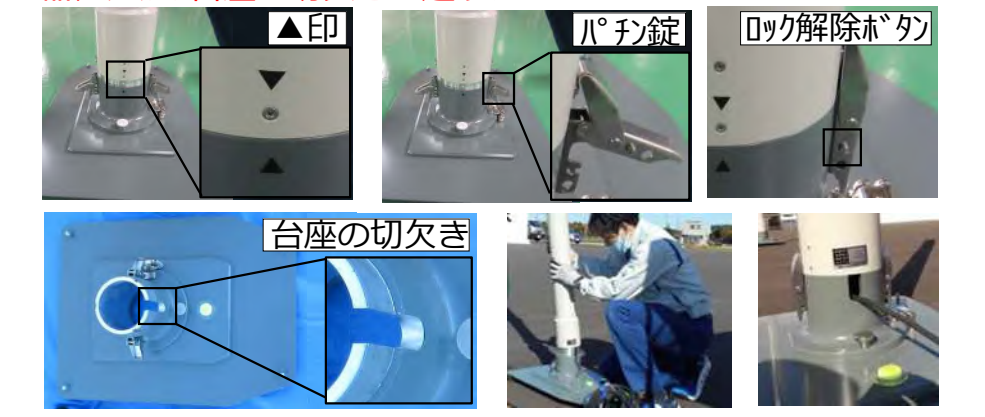
2. 検出器の接続



(1) ②検出器と⑪検出器ケーブルを、同じ**カ**番号同士で接続 (接続端子の5個の爪を合わせ真直ぐ差し込む) する。



(2) ②検出器と③台座の▲印が合うように接続し、両側のパチン錠2個を施錠 (ロック解除ボタンを押しながら解錠) する。⑪検出器ケーブルは台座の切欠きに通す。

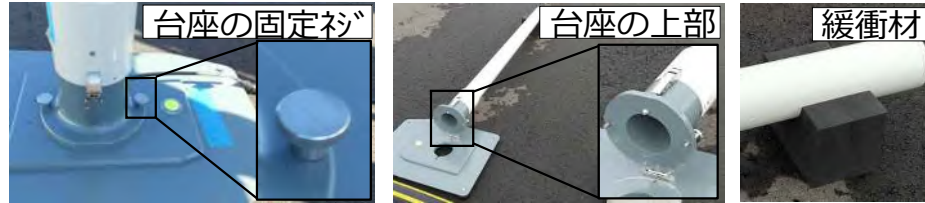


1.1.(2) 展開の手引き ～ゲートモニタ (ガンマ・ポール)～

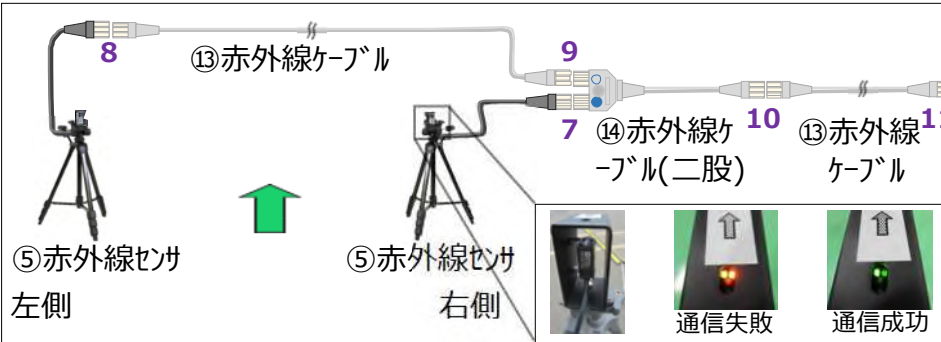
展開目安時間：約40分/2人作業
(ケース開封～運用)

2. 検出器の接続

(3) ③台座の固定ネジ2個を反時計回り(約20周が目安)に回して**完全に緩め**、台座の上部を②検出器ごと地面に寝かせる。検出器と地面の間には、⑤緩衝材を敷く。



3. 赤外線センサの接続



Point 通電時は右側の赤外線センサのLEDで動作状況を確認可能

(1) ⑬巻尺で検出器手前の距離を測り、**検出器から約1m**の位置に⑤赤外線センサ(高さ約50cm)が向き合うよう**ケーブル番号(左側：8、右側：7)**を基に**左右へ設置**する。



(2) ⑬⑭赤外線ケーブルと⑤赤外線センサを、**同じケーブル番号同士(7～10)**で**接続**(接続端子の1個の爪を合わせ真直ぐ差し込む)し、**接続端子を1/8回転してロック**する。



4. ケーブルの保護

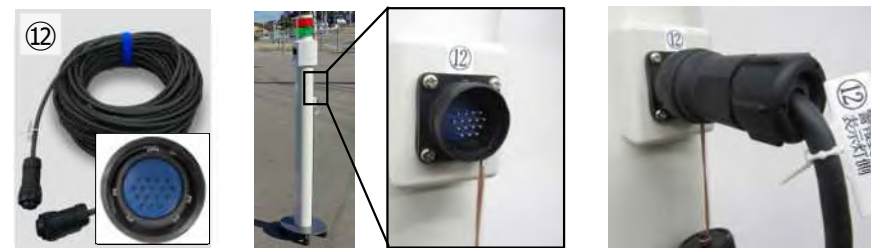
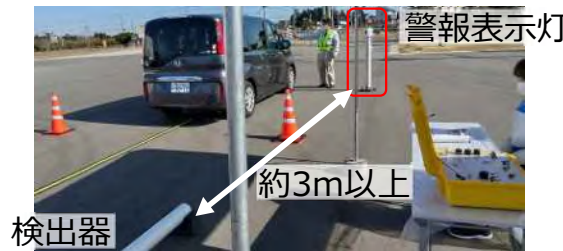
(1) 通過車両が踏む可能性のある⑪検出器ケーブルと⑬赤外線ケーブルを⑦ケーブルプロテクタに収納する。



5. 警報表示灯の接続



(1) ④警報表示灯を設置し、⑫警報表示灯ケーブルの**同じケーブル番号同士(12)**を**接続**(5個の爪を合わせ真直ぐ差し込む)する。



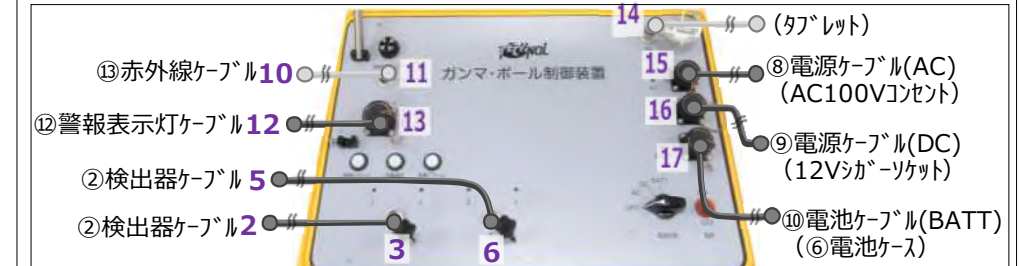
Point ゲートモニタ後方の要員に出力結果を伝達するため、警報表示灯は要員の近く(検出器から約3m以上奥側)に設置。

(2) ④警報表示灯の音量ボリュームを軽く回して音量を調整する。



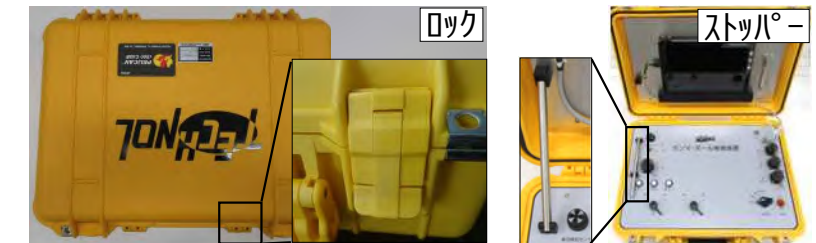
Point ゲートモニタ後方の要員に出力結果を伝達できる、必要最小範囲の音量に留めておく。

6. 制御装置・電源の接続



Point 雨天時は①制御装置に大ポリ袋を被せ、防滴性を補強する。

(1) **右側**の②検出器近くに①制御装置を設置後、取手横のロックを上げてから蓋を開き、蓋のストッパ-を上げる。



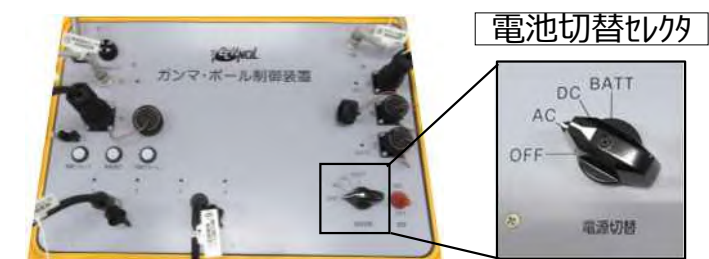
(2) 制御装置と各種ケーブルを、**同じケーブル番号同士(3、6、11、13、14)**で**接続**する。

(3) 使用する電源(AC100Vコンセント、12Vシガーソケット、⑥電池ケース)に合わせて、**ケーブル番号(15～17)**の**いずれか一つ**を選択し、**接続**(5個の爪を合わせ真直ぐ差し込む)する。



Point 感電のおそれがあるため、**電源ケーブルは最後に電源(コンセント等)へ接続**

(4) 選択した電源(AC100Vコンセント、12Vシガーソケット、⑥電池ケース)に、「電源切替」レバ-を合わせる。



例) AC100V電源の場合

7. 制御装置の起動

(1) 「電源切替」レバと電源の接続端子が一致していることを確認し、電源スイッチを「ON」にする。

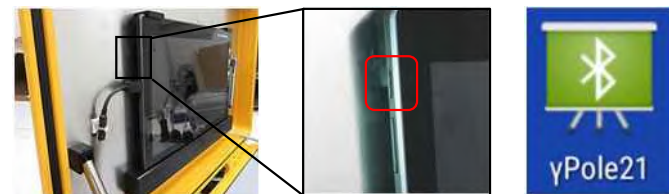


例) AC100V電源の場合

(2) 左右の⑤赤外線センサの角度を調整し赤外線を通信（右側の赤外線センサ上部のLEDが緑色点灯）させる。



(3) タブレットの電源ボタンを長押しして起動後、タブレット画面上の「γPole21」をタッチし、アプリを起動する。



(4) 起動後、Ch1、3又はCh2、4に「準備中」が表示されるため、デジタル表示値が表示されるまで待機（約1分間）する。

準備中		デジタル表示値	
Ch1 :	準備中	Ch1 :	48480 cpm(GROSS)
Ch2 :		Ch2 :	
Ch3 :	準備中	Ch3 :	49920 cpm(GROSS)
Ch4 :		Ch4 :	

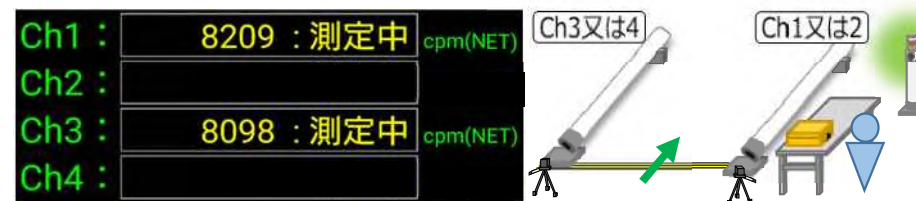
Point 起動直後は、起動してから5分間の余熱時間を待つこと。

8. 使用前点検の実施

(1) タブレットを確認し、デジタル表示値が検出器間で同程度であることを確認する。

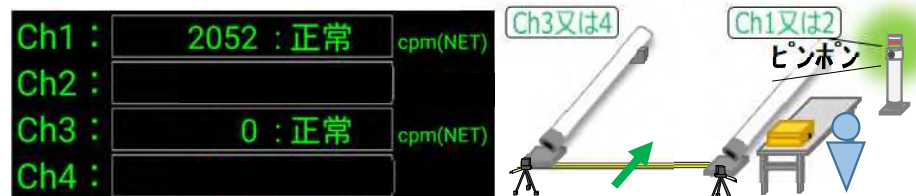
Ch1 :	48480	cpm(GROSS)
Ch2 :		
Ch3 :	49920	cpm(GROSS)
Ch4 :		

(2) 手で赤外線センサを遮ることで、車両通過時を模擬し、車両通過時はCh1、3又はCh2、4に「測定中」画面表示、緑ランプ点滅が出力されることを確認する。

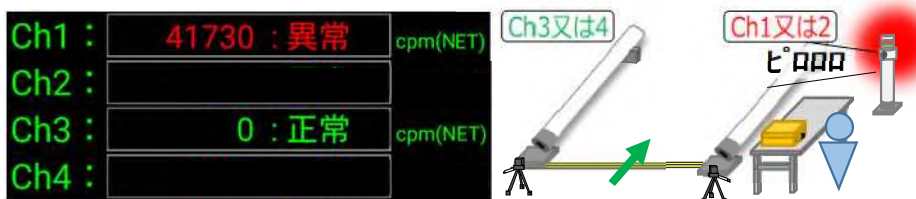


(3) 赤外線センサを遮ることを止め、車両通過後を模擬し、次のいずれかの出力になるか確認する。

①車両通過の3秒後、警報設定値以下の場合はCh1、3又はCh2、4に「正常」画面表示、緑ランプ点灯、音出力（約3秒間）。



②車両通過の3秒後、警報設定値を超えた場合は検出した検出器Ch1、3又はCh2、4に「異常」画面表示、赤ランプ点灯、音出力（約3秒間）。



Point ゲートモニタは、使用前に警報設定値を設定する必要がある。「運用の手引き」を参照。

(4) 結果出力後はバックグラウンド計数率の画面に自動で戻ることを確認する。

正常に動作しない場合の対応

- 事象に応じて、以下の対応を試みる。
 - タブレットの画面が固まって動かない場合
一度タブレットのアプリを終了し、再度立ち上げる。
 - タブレットのバッテリー残量がない場合
AC電源に切り替えて、タブレットが充電されるか確認する。
 - タブレットの画面に数値が表示されない場合
検出器－制御装置間の検出器ケーブルの接続を再確認する。
 - タブレット画面に「測定中」が表示されたままの場合
左右に設置されている赤外線センサ同士が通信できているか確認する。
- 上記事象に該当しない場合は、**検査責任者補佐員**に無線・トランシーブ等を用いて伝達する。

1.2. 展開の手引き ～避難退域時検査会場入口・車両待機場所～

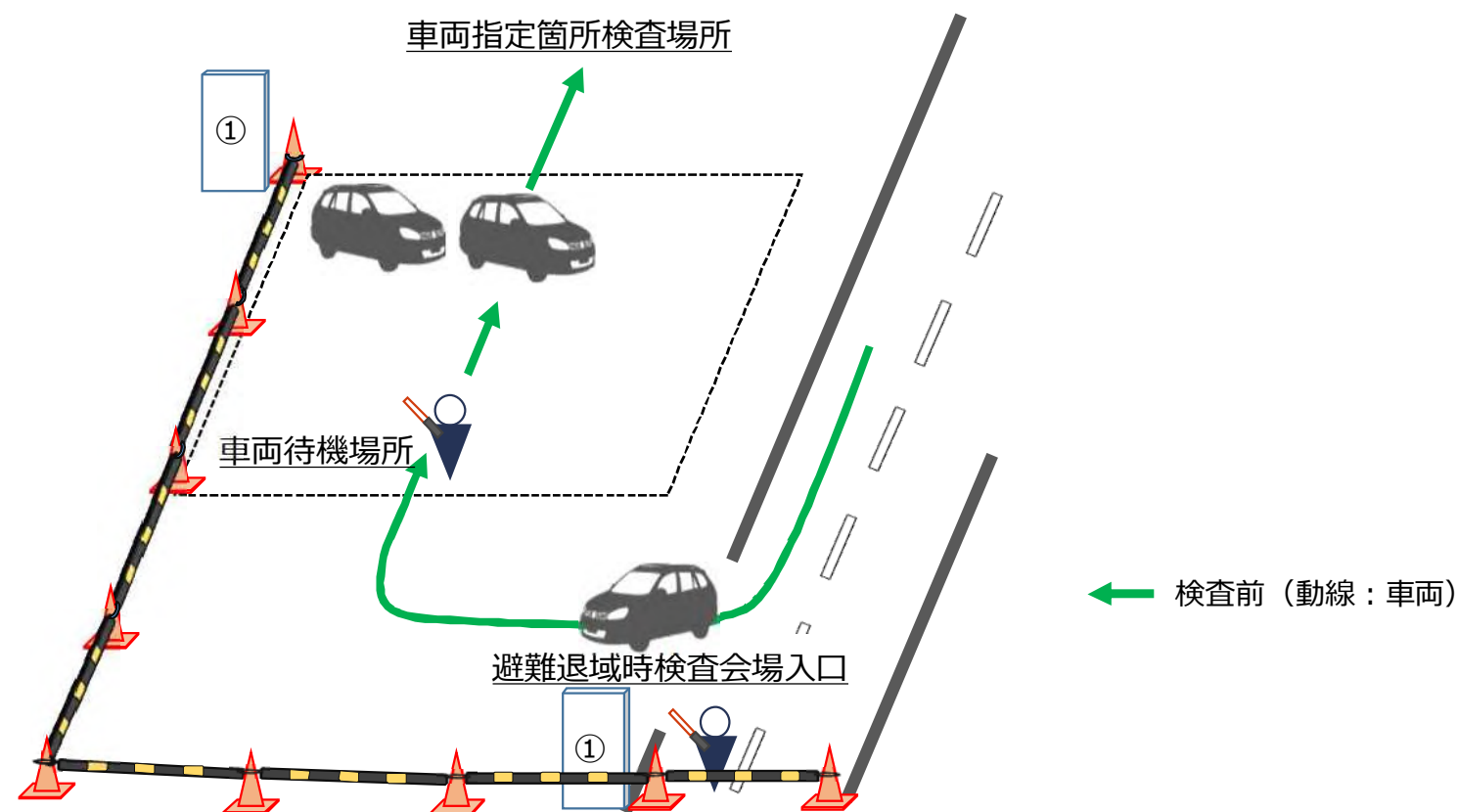
展開目安時間：約30分/3人作業
(組立～運用開始)

要員装備

要員	物品
 車両誘導係	 LED誘導棒  LEDベスト

- Point 電子式個人線量計は、同一グループの最も被ばくしやすい者が着用。
- 車両、住民の簡易除染、汚染物質の取り扱いの役割を担う者は、使い捨てがわ、ズボン、帽子等を着用してもよい。

レイアウト例



- Point 可能な限り検査会場の出入口を別に設け、導線の交差により汚染が拡大する可能性を防ぐ。
- 必要に応じて、車両の経路を経路誘導コーン等を用いて区分けする。
- 必要に応じて、照明等を設置する。

設営資機材



①誘導案内板



⑤経路誘導コーン



②案内板の固定用重り



⑥コーンE1付



③照明

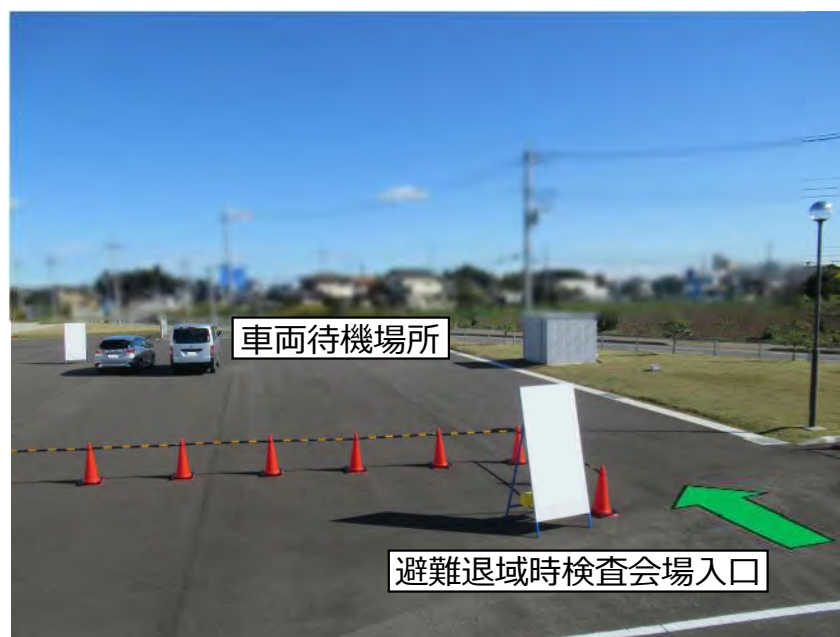


⑦コーンバー



④発電機

配置イメージ



避難退域時検査会場入口・車両待機場所



避難退域時検査会場入口

1.3. 展開の手引き ～車両指定箇所検査場～

展開目安時間：約120分／5人作業
(テント組立～運用開始)

要員装備

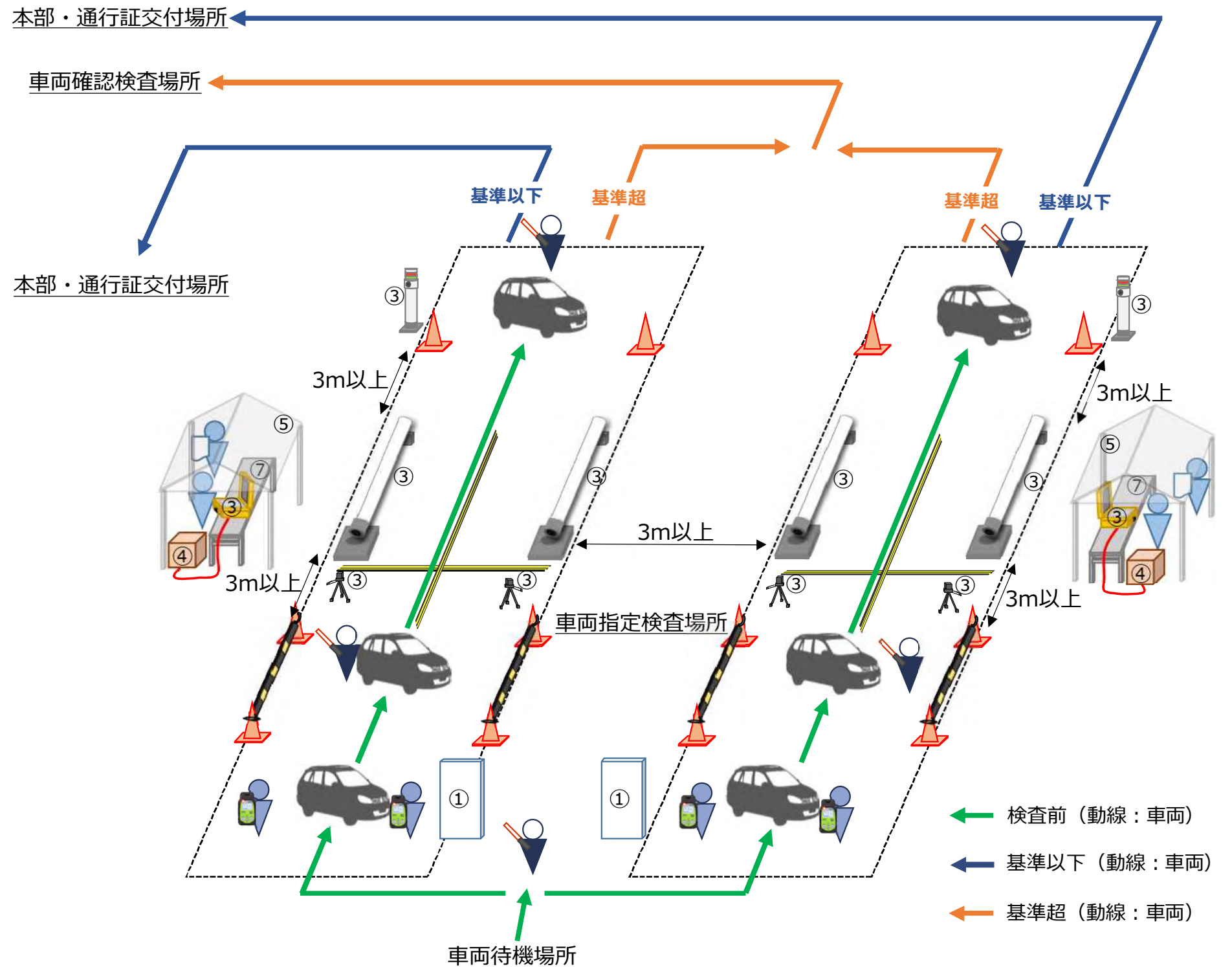
要員	物品
 車両誘導係	LED誘導棒 LEDベスト
 検査係	表面汚染検査用測定器 ビブス サージマスク ゴム手袋 綿手袋
 操作係	ビブス
 記録係	ビブス 筆記用具・検査結果記入用紙

- Point**
- 電子式個人線量計は、同一グループの最も被ばくしやすい者が着用。
 - 車両、住民の簡易除染、汚染物質の取り扱いの役割を担う者は、使い捨てがわ、ズボン、帽子等を着用してもよい。

設営資機材

 ①誘導案内板	 ⑤テント：組立タイプ (約1.8×2.7m)	 ⑨照明
 ②案内板の固定用重り	 ⑥重り	 ⑩LED投光器
 ③車両用ゲートモタ	 ⑦机	 ⑪経路誘導コーン
 ④発電機	 ⑧椅子	 ⑫コーン帽
		 ⑬コーンカバー

レイアウト例



- Point**
- 基準以下と基準超で導線が交差しないレイアウトにし、汚染が拡大する可能性を防ぐ。
 - 2レーンの場合は、それぞれのゲートモタ同士に3m以上の距離を空けて設営する。
 - それぞれのゲートモタには、車両の通過位置の目安となる中心線を設ける。
 - ゲートモタの手前側と奥側には、車両の停車位置（検出器から距離3m以上）の目安に経路誘導コーン等を設ける。
 - テントを配置する際には、現地の状況に応じて設置する位置に注意する。
 - テントの脚には重りを設置し、風で飛ばないように対策をする。
 - 必要に応じて、車両の経路を経路誘導コーン等を用いて区分けする。
 - 必要に応じて、照明等を設置する。

1.3. 展開の手引き ～車両指定箇所検査場所～

展開目安時間：約120分/5人作業
(テント組立～運用開始)

配置イメージ



ワイパ-部検査場所 (1レーン)



ゲ-トモタ手前 (1レーン)



ゲ-トモタ通過時 (1レーン)

1.4. 展開の手引き ～車両確認検査場所～

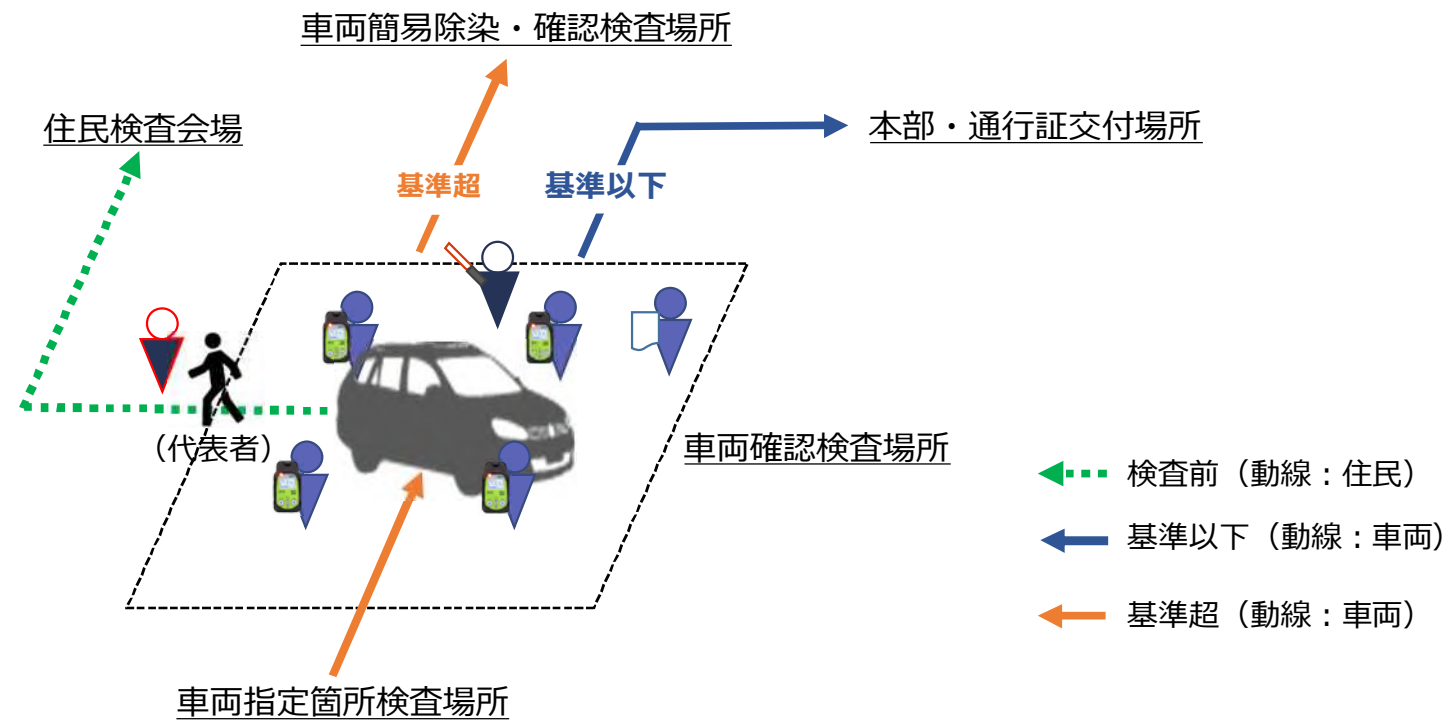
展開目安時間：約20分/3人作業
(組立～運用開始)

要員装備

要員	物品
 車両誘導係	 LED誘導棒  LEDベスト
 検査係	 表面汚染検査用測定器  ビブス  サージマスク  ゴム手袋  綿手袋
 記録係	 ビブス  筆記用具・ 検査結果記入用紙
 住民誘導係	 LEDベスト

- Point** 電子式個人線量計は、同一グループの最も被ばくしやすい者が着用。
- 車両、住民の簡易除染、汚染物質の取り扱いの役割を担う者は、使い捨てがウ、ズボン、帽子等を着用してもよい。

レイアウト例



- Point** 基準以下と基準超で導線が交差しないレイアウトにし、汚染が拡大する可能性を防ぐ。
- 必要に応じて、車両の経路を経路誘導コーン等を用いて区分けする。
- 必要に応じて、照明等を設置する。

設営資機材



①照明



②発電機

配置イメージ



車両確認検査場所



車両確認検査の様子

1.5. 展開の手引き ～車両簡易除染・確認検査場所～

展開目安時間：約60分／5人作業
(テント組立～運用開始)

要員装備

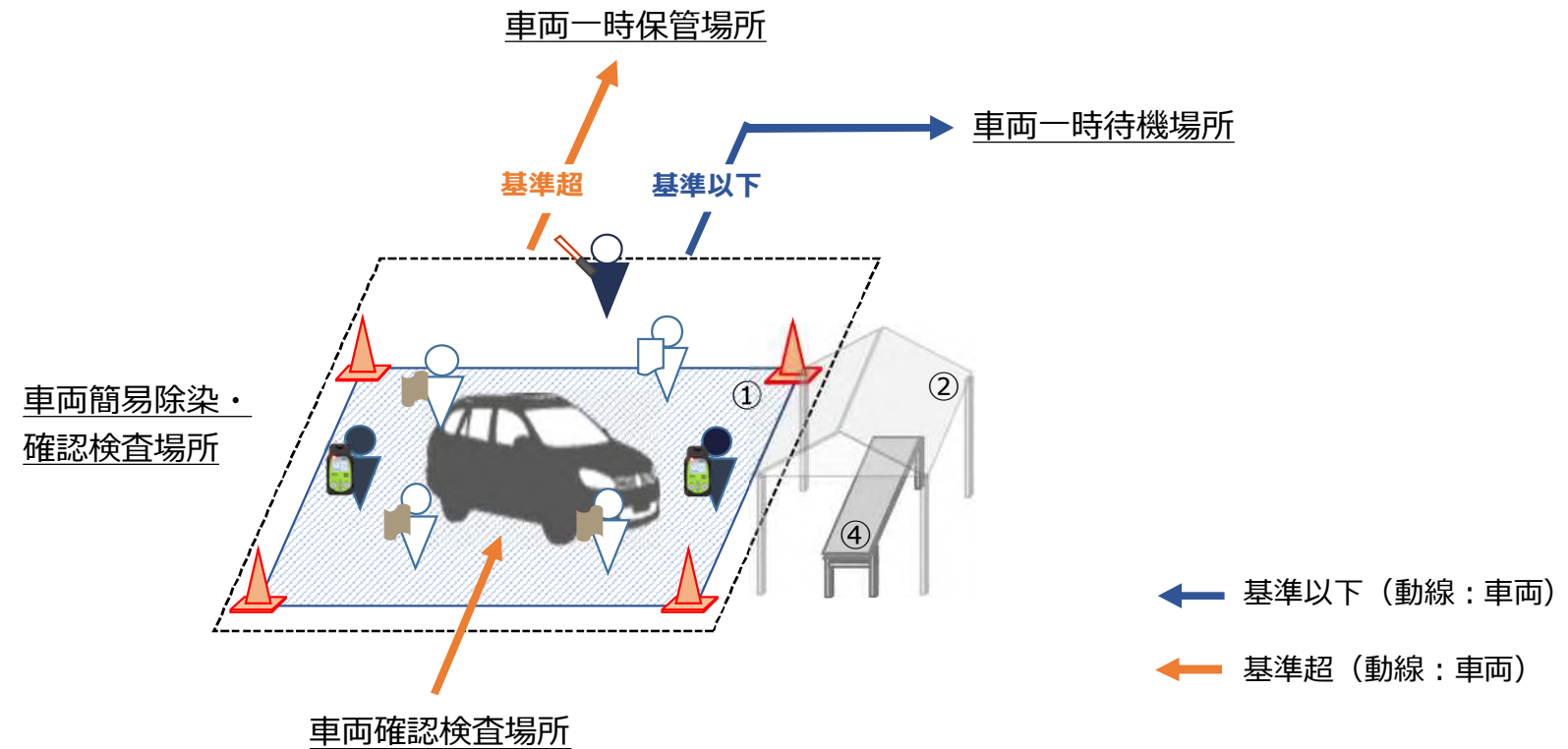
要員	物品
車両誘導係	LED誘導棒 LEDベスト
除染係	ビブス サージマスク ゴム手袋 綿手袋
検査係	表面汚染検査用測定器 ビブス サージマスク ゴム手袋 綿手袋
記録係	ビブス 筆記用具・検査結果記入用紙

- Point 電子式個人線量計は、同一グループの最も被ばくしやすい者が着用。
- Point 車両、住民の簡易除染、汚染物質の取り扱いの役割を担う者は、使い捨てガウ、ズボン、帽子等を着用してもよい。

設営資機材



レイアウト例



- Point 基準以下と基準超で導線が交差しないレイアウトにし、汚染が拡大する可能性を防ぐ。
- Point 作業場所の地面はブルーシートで養生し、風で飛ばないように経路誘導コーン等を用いて対策をする。
- Point 必要に応じて、車両の経路を経路誘導コーン等を用いて区分けする。
- Point 必要に応じて、照明等を設置する。

配置イメージ



車両簡易除染・確認検査場所



車両簡易除染の様子

設営資機材

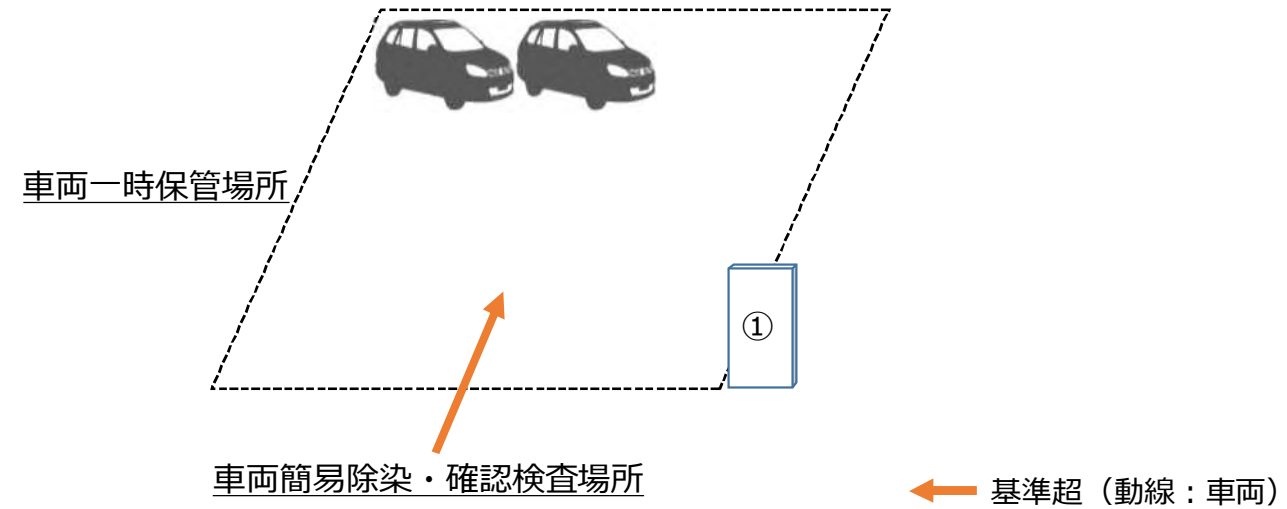


①誘導案内板



②案内板の固定用重り

レイアウト例



- Point
・ 基準以下と基準超で導線が交差しないレイアウトにし、汚染が拡大する可能性を防ぐ。
- ・ 必要に応じて、車両の経路を経路誘導コーン等を用いて区分けする。

配置イメージ



車両一時保管場所



車両一時保管場所入口

1.7. 展開の手引き ～本部・通行証交付場所～

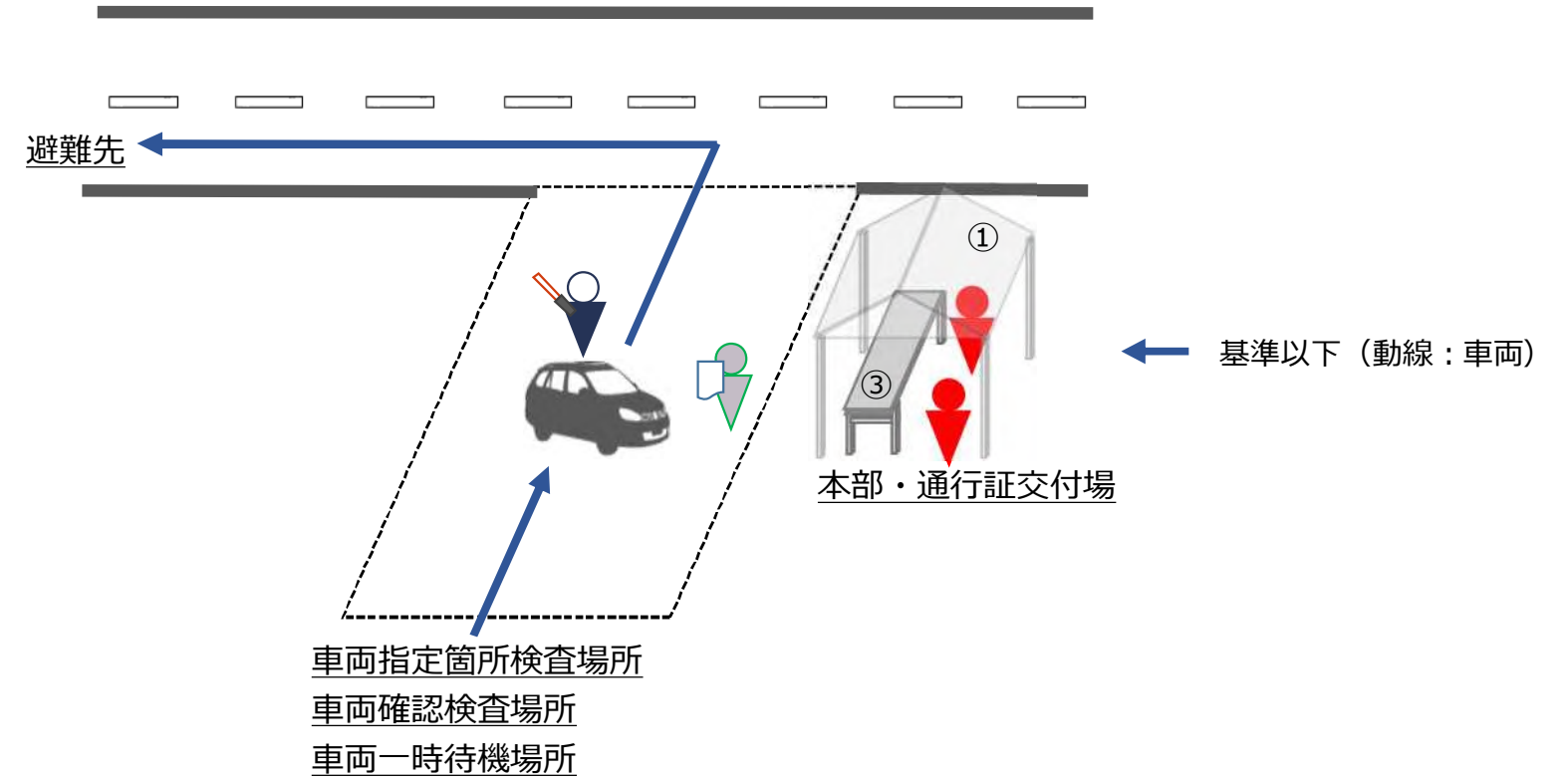
展開目安時間：約40分／5人作業
(テント組立～運用開始)

要員装備

要員	物品
 車両誘導係	 LED誘導棒  LEDベスト
 通行証交付係	 ビブス  筆記用具・通行証
 検査責任者	 ビブス
 検査責任者補佐	 ビブス  空間線量率用測定器

- Point**
- 電子式個人線量計は、同一グループの最も被ばくしやすい者が着用。
 - 車両、住民の簡易除染、汚染物質の取り扱いの役割を担う者は、使い捨てがわ、ズボン、帽子等を着用してもよい。

レイアウト例



- Point**
- 基準以下と基準超で導線が交差しないレイアウトにし、汚染が拡大する可能性を防ぐ。
 - 必要に応じて、車両の経路を経路誘導コーン等を用いて区分けする。

準備品

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 
①テント：組立タイプ
(約1.8×2.7m) | 
⑥要員用保存食 | 
⑪椅子 | 
⑫電源リール |
| 
②重り | 
⑦紙コップ | 
⑫メガホン | 
⑬ガリソリ携行缶 |
| 
③机 | 
⑧簡易トイレセット | 
⑬無線・トランシーバ | 
⑭AED |
| 
④廃棄物保管用容器 | 
⑨ポータブルトイレ | 
⑭照明 | 
⑮救急セット |
| 
⑤要員用飲料 | 
⑩廃棄物用ゴミ袋 | 
⑮発電機 | 
⑯スポットクーラー・電気ストーブ |

配置イメージ

